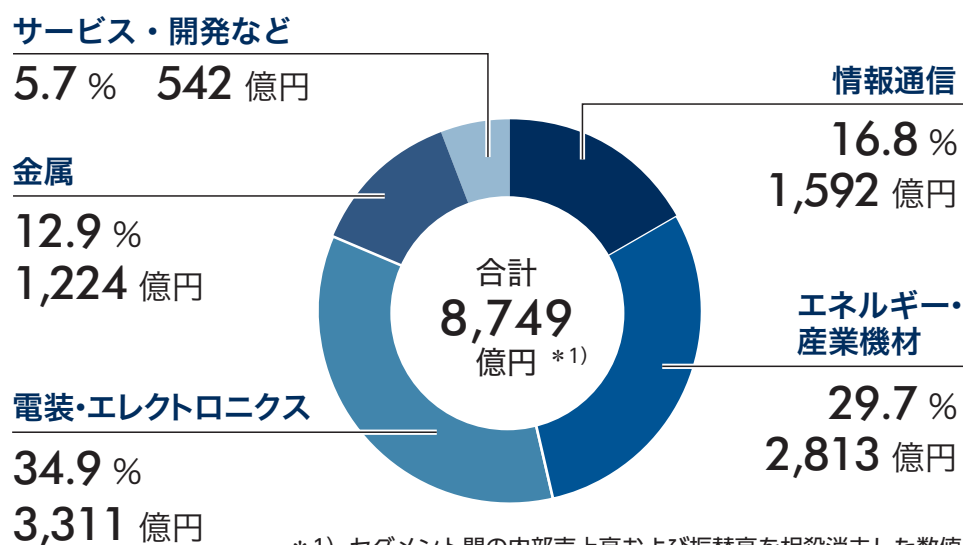


セグメント別売上高構成比率 (連結 2016年3月期)



売上高

(億円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
情報通信	1,445	1,461	1,539	1,552	1,592
エネルギー・産業機材	2,722	2,657	2,989	2,932	2,813
電装・エレクトロニクス	2,120	2,437	2,910	3,082	3,331
金属	1,416	1,294	1,307	1,337	1,224
軽金属 *2)	1,956	1,850	966	0	0
サービス・開発など	365	370	441	535	542
消去	-836	-823	-834	-760	-733
合計	9,188	9,247	9,318	8,678	8,749

営業利益

(億円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
情報通信	41	19	78	57	78
エネルギー・産業機材	-8	20	17	43	70
電装・エレクトロニクス	51	93	140	129	129
金属	-0	-13	-31	-49	-11
軽金属 *2)	57	44	44	0	0
サービス・開発など	17	15	4	-1	5
消去	2	-0	2	1	0
合計	159	178	255	179	271

売上高営業利益率

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
情報通信	2.8%	1.3%	5.1%	3.6%	4.9%
エネルギー・産業機材	-0.3%	0.7%	0.6%	1.5%	2.5%
電装・エレクトロニクス	2.4%	3.8%	4.8%	4.2%	3.9%
金属	0.0%	-1.0%	-2.3%	-3.7%	-0.9%
軽金属 *2)	2.9%	2.4%	4.6%	—	—
サービス・開発など	4.7%	4.1%	0.9%	-0.2%	0.9%
合計	1.7%	1.9%	2.7%	2.1%	3.1%

*2) 軽金属は2013年10月のUACJ発足にともない、2013年度第3四半期より持分法投資損益に計上

情報通信

マルチメディア時代に応える最先端の光技術。
高度情報化社会の中核を多面的に支えています。

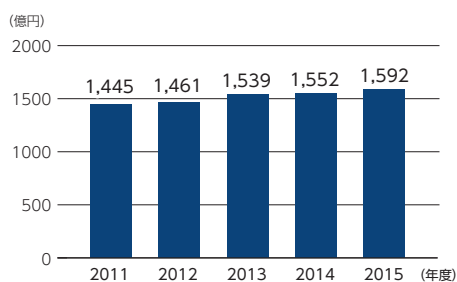
■ 2015年度 決算

連結売上高	1,592億円（前期比2.6%増）
連結営業損益	78億円（前期比37.4%増）

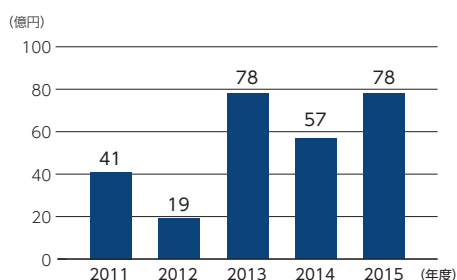
光ファイバ・ケーブルについては、景気後退の影響を受けたブラジルなどを除き、北米を中心とした旺盛な需要を背景に売上高が伸張し、また、ネットワーク関連事業も堅調に推移しました。

当部門では、2015年9月に、モロッコにおいて光ファイバ・ケーブルの製造子会社を設立したほか、同年12月にはミャンマーにおいて情報通信ネットワークの設計および通信工事コンサルタント業務を行う子会社を設立しました。また、同じく同年12月には南米におけるLANソリューションシステム事業を拡大することを目的に、ブラジルにある通信用機器製造会社を買収いたしました。

■ 売上高の推移



■ 営業利益の推移



2015年度 主なトピックス

9月

▶ **ブラジルで光ファイバ増産**
（2014年9月～2015年9月 生産能力125%UP）

▶ **モロッコに光ファイバ・ケーブル製造子会社を設立**
～今後飛躍的な成長が見込まれるアフリカ市場への戦略拠点に～
（2016年12月末 稼働開始予定）



モロッコ工場（完成予想図）

▶ **ミャンマーに現地法人の設立を決定**
～情報通信インフラ整備に貢献～



2016年5月開所式

12月

▶ **インドで光ファイバ増産**
～成長著しいインド光ファイバ市場へ供給～
（2013年8月～2015年12月 生産能力80%UP）

▶ **ブラジルの大手通信用機器製造会社を買収**
～南米におけるLANソリューションシステム事業を拡大～

エネルギー・産業機材

省エネルギー・環境保全という時代の要請に応えながら、トータルな技術で、高度な電力ネットワークを構築しています。

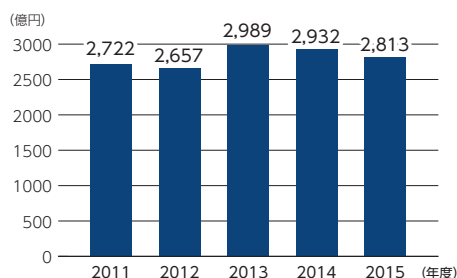
■ 2015年度 決算

連結売上高	2,813億円（前期比4.1%減）
連結営業損益	70億円（前期比64.1%増）

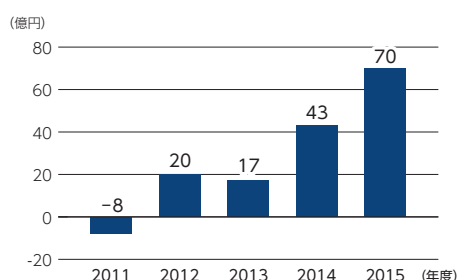
銅地金価格の下落に伴う製品価格の低下や中国での販売不振により、電力ケーブルの売上が低迷しましたが、スマートフォン向けなどの半導体需要が増加したことにより、半導体製造用テープの販売が好調に推移したほか、発泡製品の売上が欧州において伸張しました。また、非常用電線に使用される機器用電線の販売も好調で、損益の向上に寄与しました。

当社は、(株)ビスキャスから同社の地中送電線および海底送電線事業のうち海外部門を2015年4月に譲り受けたことに加え、これら事業の国内部門についても2016年10月を目処に譲り受ける予定です。また、2015年11月にはベトナムにおいて、送变电機材や架空配線機材などの送配電部品事業の子会社を現地企業との合併により設立するなど、電力インフラへの需要が拡大する海外市場での事業の強化に努めています。

■ 売上高の推移



■ 営業利益の推移



2015年度 主なトピックス

4月

▶ (株)ビスキャスから、同社の地中送電線および海底送電線事業のうち海外部門を譲り受け（同事業の国内部門は2016年10月を目処に譲り受ける予定）



海底送電線敷設工事

7月

▶ 次世代の洋上直流送電システム開発事業に参画

～洋上発電電力を効率的に送電～

※詳しくはP8特集「再生可能エネルギーの未来を拓く」をご覧ください。

10月

▶ 南米ペルーでOPGWの大型プロジェクトを一括受注

～環境インフラにおけるOut-to-Outビジネスをさらに強化～

OPGW
(光ファイバ複合架空地線)

※詳しくはP11特集「インフラビジネス・環境対応製品でグローバルに貢献」をご覧ください。

11月

▶ ベトナムに送配電部品の合併会社を設立

～拡大続く電力需要に対応～

▶ リサイクル樹脂製ケーブルトラフがイギリスの鉄道で正式採用

～施工性及び耐用性、環境性に優れた

「グリーントラフ®」の需要が拡大～



グリーントラフ

※詳しくはP10特集「インフラビジネス・環境対応製品でグローバルに貢献」をご覧ください。

2月

▶ 国内最大級の太陽光発電所向けアルミ地中送電ケーブルを受注

電装・エレクトロニクス

安全性、快適性、そして環境との調和に、トータルテクノロジーで挑戦しています。

■ 2015年度 決算

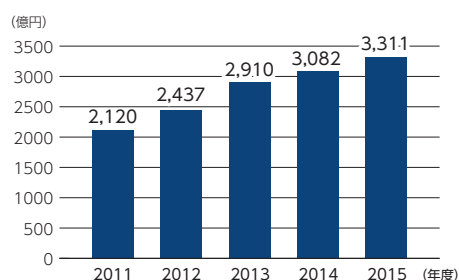
連結売上高 3,311 億円（前期比7.4%増）

連結営業損益 129 億円（前期比同水準）

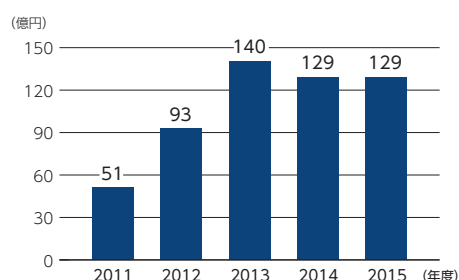
放熱用部品であるヒートシンクの需要が旺盛であったこと、子会社の古河電池（株）においてハイブリッド車およびアイドリングストップ車向け鉛蓄電池の販売が好調であったことなどから、売上を伸ばしました。一方、自動車用ワイヤハーネスは、円安による海外工場製造品の輸入費用増加や、海外拠点での新規車種向け製品の製造立ち上げ時の混乱などにより、コストが増加しました。

なお、2015年4月に、当社持分法適用の関連会社である（株）UACJとの合併で、ハードディスク用アルミ基板材の販売・技術サービスを行う子会社を設立しました。

■ 売上高の推移



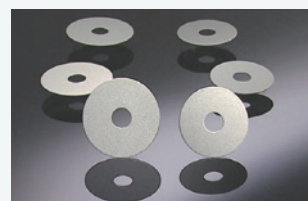
■ 営業利益の推移



2015年度 主なトピックス

4月

- ▶（株）UACJと設立したアルミニウム・メモリーディスク用ブランク材の販売・開発会社「（株）古河UACJメモリーディスク」が営業開始

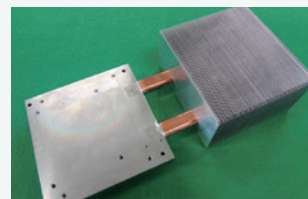


メモリーディスク

6月

- ▶熱輸送性能を大幅に向上、新型ヒートパイプを開発

～次世代自動車、高速鉄道の熱対策に貢献～

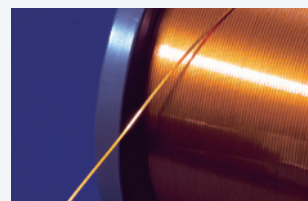


新型ヒートパイプを使用したヒートシンクの例

8月

- ▶栄星電線工業（台湾）との協業を加速

～車載用など高機能エナメル線のグローバル製造能力を増強～

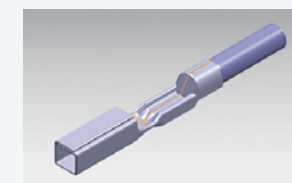


リボン線

9月

- ▶次世代の自動車用アルミハーネス接続技術の開発に成功

～世界に先立つ防食構造で自動車の軽量化に貢献～



アルミ電線用防食端子

1月

- ▶世界最高クラス、大光量500W LED対応標準ヒートシンクを開発

～シチズン電子製「CLU550」に対応～

金属

伝統技術と最先端技術を統合。

これからの社会のニーズに応える、新素材の可能性を追求しています。

■ 2015年度 決算

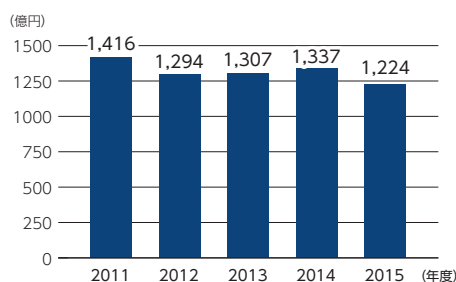
連結売上高 1,224 億円（前期比 8.4%減）

連結営業損益 - 11 億円（前期比 38 億円改善）

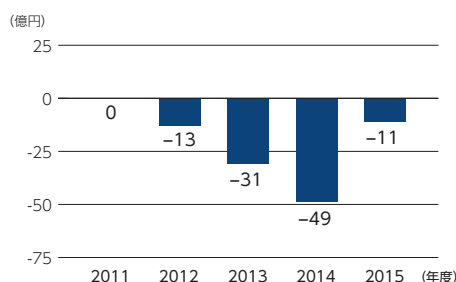
2014年2月の日光事業所での大雪被害による銅条製品製造工程の一部停止が完全復旧し、同製品の販売については数量面では概ね所期の計画を達成しましたが、銅地金価格の下落による製品価格の低下や銅箔の需要伸び悩みなどにより、当部門全体の売上高は減少しました。損益面につきましては、銅条事業の雪害からの復旧に加え、銅箔事業において電力コスト等の面で競争力が低下した国内製造能力を縮小し、台湾子会社への製造移管を促進するなどの損益改善策を実施したことなどにより、赤字幅が縮小しました。

また、2015年10月1日付で、当社の銅条・高機能材事業部門における貴金属めっき事業について、当社完全子会社の古河精密金属工業（株）を承継会社とする吸収分割（簡易分割）を行いました。

■ 売上高の推移



■ 営業利益の推移



2015年度 主なトピックス

10月

▶ 高性能銅合金条の量産を開始

～次世代自動車向けに高い導電性と良好な耐熱性を両立～



高性能銅合金条 EFTEC®-550

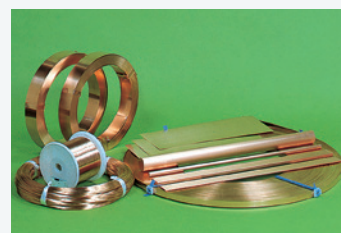
3月

▶ 米国立研究所向けにアルミ安定化超電導体の納入を開始

～基礎物理学の世界的発展に寄与～

▶ 日光事業所銅条生産が回復

～年間生産計画を達成～



銅条製品



新素条工場

サービス・開発など

物流、情報処理・ソフトウェア開発、各種業務受託などによる
当社グループ各事業のサポート、不動産の賃貸、水力発電、新製品研究開発
などを行っております。

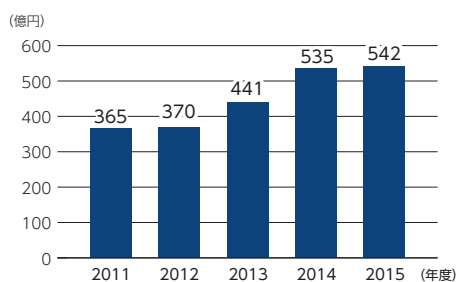
■ 2015年度 決算

連結売上高 542億円（前期比1.2%増）

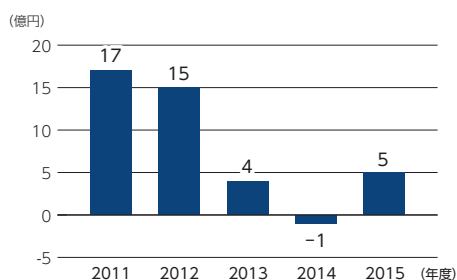
連結営業損益 5億円（前期比6億円改善）

当部門では、2015年7月にファナック（株）との合併で、金属の切断、溶接等に使用される産業用光ファイバ・レーザの基幹部品である高出力レーザ・ダイオード・モジュールを製造する関連会社FFレーザ（株）を設立しました。新会社では、急速に普及が進んでいる産業用光ファイバ・レーザ分野において、事業の拡大を進めていきます。

■ 売上高の推移



■ 営業利益の推移

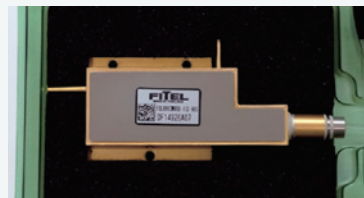


2015年度 主なトピックス

7月

高出力レーザ・ダイオード・モジュールの合併会社を設立

ファナック株式会社と当社は、産業用光ファイバレーザの基幹部品である高出力レーザ・ダイオード・モジュールの開発、製造を行う新会社を設立しました。



レーザ・ダイオード・モジュール

10月

古河日光発電株式会社 水力発電所の更新を完了
～再生可能エネルギーを活用した余剰電力の供給を開始～



上の代発電所

※詳しくはP9特集「再生可能エネルギーの未来を拓く」をご覧ください。